

13. 埋火葬の円滑な実施に関する マニュアル

埋火葬の円滑な実施に関するマニュアル 概要

基本的な考え方

死亡者が多数発生した場合であっても、公衆衛生上の問題が生ずることがないよう、埋火葬を円滑に実施できる体制を整備する。

	準備期	初動期	対応期
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の把握 ・ 火葬体制の構築 ・ 近隣県との連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資器材等の備蓄 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の把握 ・ 資材等の確保 ・ 円滑な火葬及び遺体保存の実施
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町に対し、火葬場の火葬能力並びに臨時遺体安置所数について調査を要請し、その結果について県内の市町及び近隣の県と情報共有する。 ・ 調査結果を踏まえ、対応期に備えた火葬体制の整備、物資確保の準備、火葬業務経験者等のリスト化を行う。 ・ 近隣県と資器材や燃料を迅速に融通する連携体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬送作業及び火葬作業に従事する者の感染防止のための保存物資、遺体の保存のための保存剤及び遺体からの感染を防ぐための非透過性納体袋等を確保し、また、火葬場に対して燃料備蓄量の増強を要請する。 ・ 市町は、県の協力を得て、臨時遺体安置所及び遺体の保存作業に従事する人員の確保についても準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時火葬場の火葬能力について最新情報を把握し、市町及び近隣の県と共有する。 ・ 確保した資材等を各種作業従事者に供給する。 ・ 市町は、遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者と連携し、円滑な火葬の実施に努める。また、臨時遺体安置所を活用した遺体の保存を適切に行う。

目次

第1章	はじめに.....	308
第2章	各段階における対応	309
1.	関係機関の役割	309
2.	準備期までの対応.....	309
	(1) 現状の把握	309
	(2) 火葬体制の構築.....	309
	(3) 近隣県との連携体制の構築	310
3.	初動期における対応.....	310
	(1) 資器材等の備蓄.....	310
4.	対応期における対応.....	311
	(1) 情報の把握	311
	(2) 資材等の確保.....	311
	(3) 円滑な火葬及び遺体保存の実施	311
	(4) 搬送作業及び火葬作業に従事する者の感染防止策に係る留意 事項.....	311
	(5) 感染拡大等によって火葬体制が逼迫している場合等の措置	312

第1章 はじめに

今日の我が国における葬法（埋葬及び火葬等）は、火葬の割合がほぼ 100 パーセントを占めているが、病原性の高い新型インフルエンザ等の感染が拡大し、全国的に流行した場合には、死亡者の数が火葬場の火葬能力を超える事態が起こり、火葬の円滑な実施に支障を生ずるとともに、公衆衛生上、火葬を行うことができない遺体の保存対策が大きな問題となる可能性がある。

他方、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「感染症法」という。）第 30 条第 3 項においては、墓地、埋葬等に関する法律（昭和 23 年法律第 48 号。以下「墓埋法」という。）第 3 条に規定する 24 時間以内の埋火葬禁止規定の特例として、新型インフルエンザ等によって死亡した者については、感染防止の観点から 24 時間以内の埋火葬が認められているとともに、感染症法第 30 条第 2 項において、このような病原体に汚染され、又は汚染された疑いがある遺体は、原則として火葬することとされている。

そのため、対応期において死亡者が多数に上った場合も、速やかに火葬を行うことのできる体制をあらかじめ整備する。

また、新型インフルエンザ等に感染した遺体の保存や埋火葬に当たっては、感染拡大を防止する観点から一定の制約が課せられることになるが、他方で、地域の葬送文化や住民の宗教感情等にも十分配慮する必要があることから、感染拡大防止対策上の支障等がない場合には、できる限り遺族の意向等を尊重した取扱いをすることとする。

本マニュアルは、新型インフルエンザ等が県内に流行した際に、各地域において埋火葬ができる限り円滑に実施されるよう、県及び市町や関係機関において講ずることが適当と考えられる措置を中心に取りまとめたものである。

なお、実際に発生した新型インフルエンザ等の特性や有効な感染防止策に関してその時点で得られている最新の知見や具体的な発生状況等に応じ、例えば、搬送作業及び火葬作業に従事する者の感染防止策に係る留意事項など、本マニュアル上の措置について見直しを図られる場合があることにも留意する必要がある。

第2章 各段階における対応

1. 関係機関の役割

- ア 県は、市町の意見を聞いた上で、県域内における火葬体制の整備等必要な体制の整備や調整を図るほか、市町が行う個別の埋火葬に係る対応及び遺体の保存対策等を広域的な視点から支援・調整する役割を担うものとする。
- イ 市町は、墓埋法において、埋火葬の許可権限等、地域における埋火葬の適切な実施を確保するための権限が与えられていることから域内における埋火葬の適切な実施を図るとともに、個別の埋火葬に係る対応及び遺体の保存対策等を講ずる主体的な役割を担うものとする。
- ウ 医療機関等は、遺体が新型インフルエンザ等の病原体に汚染され又は汚染された疑いのある場合、プライバシーの保護にも十分配慮した上で、感染拡大防止の観点から、遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者にその旨伝わるよう留意する。
- エ 遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者は、対応期においては火葬場の火葬能力を超える死亡者がでることも考えられるため、県の行う調整の下、市町と連携し効率的な遺体の搬送及び火葬に努めるものとする。
- オ 県は、死亡者が増加し、公衆衛生上の問題が生じるおそれが高まった場合、国に必要な支援を行うよう要請する。

2. 準備期までの対応

(1) 現状の把握

県は、市町に対し、火葬場における稼働可能火葬炉数、平時及び最大稼働時の一日当たりの火葬可能数、使用燃料の種別、その備蓄量及び職員の配置状況等の火葬場の火葬能力並びに公民館、体育館及び保冷機能を有する施設など一時的に遺体を安置することが可能な施設（以下「臨時遺体安置所」という。）数について調査を要請し、その結果について、県内の市町及び近隣の県との情報の共有を図るものとする。

(2) 火葬体制の構築

ア 県は、調査の結果を踏まえ、市町の意見を聞いた上で、対応期に備えた火葬体制の整備を行うものとする。その際には、遺体搬送手段の確保のため必要に応じて遺体の搬送作業に従事する者と協定を締結するほか、県警察等関係機関と必要な調整を行うものとする。

また、県は、遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者の感染防止のため

に必要となる手袋、不織布製マスク、新型インフルエンザ等が全国的に流行した際に火葬場の火葬能力を最大限に発揮できるようにするための消耗品（火葬の際に必要となる柩又はこれに代わる板等）等の物資を確保できるよう準備するものとする。

あわせて、火葬業務の実施体制に関しては、緊急時に火葬業務への協力が得られる火葬業務経験者等をリスト化しておくことも有用である。

イ 市町は、県の火葬体制を踏まえ、域内における火葬の適切な実施ができるよう調整を行うものとする。その際には戸籍事務担当部局等の関係機関との調整を行うものとする。

（3）近隣県との連携体制の構築

遺体は、できる限り県域内で火葬することが望ましい。しかしながら、対応期に火葬場の火葬能力を超える死亡者が一時的にでることも考えられるため、県は災害時の広域火葬に係る相互扶助協定等を活用するなどして、近隣の県と遺体を保存するための資器材や火葬に使用する燃料の融通を迅速に行えるよう連携体制を整備するものとする。

3. 初動期における対応

（1）資器材等の備蓄

ア 県は、遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者の感染防止のために必要となる手袋、不織布製マスク、新型インフルエンザ等が全国的に流行した際に火葬場の火葬能力を最大限に発揮できるようにするための消耗品（火葬の際に必要となる柩又はこれに代わる板等）等の物資を確保するものとする。このほか、火葬場に対し、火葬場における使用燃料の備蓄量の増強を要請するものとする。

また、県は、遺体の保存のために必要な保存剤（ドライアイス）及び遺体からの感染を防ぐために必要な非透過性納体袋等の物資を確保できるよう、域内の火葬能力に応じて準備をするものとする。なお、その際準備する非透過性納体袋については、可能な限り、顔の部分が透明のものとしたり、アウターを開ければ顔を見ることができるようインナーを透明のものとしたりするなど、対応期に使用する際においても感染防止に支障のない形で遺族等が遺体の顔を見ることが可能となるよう配慮する。

イ 市町は、県の協力を得て、新型インフルエンザ等が全国的に流行して火葬場の火葬能力の限界を超える事態が起こった場合に備え、遺体を一時的に安置するため、流行が予想される時期の季節等も勘案しながら、臨時遺体安置所を確保できるよう準備するものとする。あわせて遺体の保存作業に必

要となる人員等の確保についても準備を進めるものとする。

4. 対応期における対応

(1) 情報の把握

県は、随時、火葬場の火葬能力について最新の情報を把握するとともに、市町及び近隣の県との情報の共有を図るものとする。

(2) 資材等の確保

県は、市町と連携して、確保した手袋、不織布製マスク、非透過性納体袋等を、域内における新型インフルエンザ等の発生状況を踏まえ、遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者の手に渡るよう調整するものとする。

なお、非透過性納体袋については、県が病院又は遺体の搬送作業に従事する者に必要な数量を配付するものとする。

(3) 円滑な火葬及び遺体保存の実施

市町は、遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者と連携し、円滑な火葬が実施できるよう努めるものとする。また、火葬場の火葬能力に応じて、臨時遺体安置所として準備している場所を活用した遺体の保存を適切に行うものとする。

(4) 搬送作業及び火葬作業に従事する者の感染防止策に係る留意事項

ア 遺体との接触等について

(ア) 遺体の搬送や火葬場における火葬に際しては、遺体からの感染を防ぐため、遺体について全体を覆う非透過性納体袋に収容・密封するとともに、遺族等の意向にも配慮しつつ、極力そのままの状態での火葬するよう努めるものとする。

(イ) また、遺体の搬送に際し、遺体が非透過性納体袋に収容、密封されている限りにおいては、特別の感染防止策は不要であり、遺体の搬送を遺族等が行うことも差し支えない。

(ウ) 他方、継続的に遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者にとっては、必ず手袋を着用し、血液・体液・分泌物・排泄物などが顔に飛散するおそれのある場合には、不織布製マスク、眼の防護具（フェイスシールド又はゴーグル）を使用するものとする。また、これらの器具が汚染された場合には、単回使用のものは適切に廃棄し、再利用するものは適切な消毒を行う。

(エ) 火葬に先立ち、遺族等が遺体に直接触れることを希望する場合には、遺族等に手袋等を着用させるものとする。

イ 消毒措置について

万が一、一時的に密閉状態がなくなった場合など、消毒を行う必要が生じた場合には、消毒に用いる薬品は、消毒用エタノール、次亜塩素酸ナトリウム製剤（濃度 200～1,000ppm）、70v/v%イソプロパノール等とし、消毒法は、消毒薬を十分に浸した布又はペーパータオル等で当該箇所を満遍なく拭く方法が望ましい。消毒剤の噴霧は不完全な消毒やウイルスの舞い上がりを招く可能性があり、推奨しない。また、エタノールやイソプロパノール等の可燃性のある消毒薬を使用する場合には火気のある場所で行わないものとする。

ウ 手指衛生について

手指衛生は、感染防止策の基本であり、遺体に接触、あるいは消毒措置を講じた際等には、手袋を外した後に流水・石けんによる手洗い又は速乾性擦式消毒用アルコール製剤による手指衛生を実施する。

(5) 感染拡大等によって火葬体制が逼迫している場合等の措置

感染拡大等によって火葬体制が逼迫している場合など、必要に応じ以下の措置を講ずる。

ア 火葬体制の整備

(ア) 県は、市町に対し、火葬場の経営者に可能な限り火葬炉を稼働するよう要請するものとする。

(イ) また、市町は、遺体の搬送作業及び火葬作業に従事する者と連携を図りつつ、遺体の搬送及び火葬作業にあたる者の感染防止のために必要となる手袋、不織布製マスク等の物資を確保することに引き続き努めるとともに、火葬場の火葬能力を最大限に発揮させるため、速やかに体制の整備や物資の配備に努めるものとする。

(ウ) 県は、市町及び近隣の県と連携し、遺体の埋葬及び火葬について、墓地、火葬場等に関連する情報を広域的かつ速やかに収集し、市町の区域内で火葬を行うことが困難と判断されるときは、他の市町及び近隣県に対して広域火葬の応援・協力を要請し、広域的な火葬体制を確保するとともに、遺体の搬送の手配等を実施するものとする。

イ 遺体の保存対策

(ア) 死亡者が増加し、火葬場の火葬能力の限界を超えることが明らかになった場合には、市町は、県の協力を得て、遺体を一時的に安置するため、臨時遺体安置所を直ちに確保するものとする。あわせて、県は、臨時遺体安置所における遺体の保存のために必要な保存剤（ドライアイス）、非透過

性納体袋等の物資を確保するとともに、市町は、遺体の保存作業のために必要となる人員等を確保するものとする。

- (イ) 遺体安置所等における遺体の保存及びその搬送に当たっては、可能な限り、新型インフルエンザ等に感染した遺体とそうでない遺体とを判別できるように留意するとともに、感染した遺体の速やかな火葬について配慮するものとする。

ウ 埋葬の活用等

- (ア) 万が一、臨時遺体安置所において収容能力を超える事態となった場合には、市町は、臨時遺体安置所の拡充について早急に措置を講ずるとともに、県から火葬場の火葬能力について最新の情報を得て、円滑に火葬が行われるよう努めることとする。

- (イ) さらに、新型インフルエンザ等緊急事態において、死亡者の数に火葬場の火葬能力が追いつかず、火葬を行うことが困難な状態にあり、火葬の実施までに長期間を要し、公衆衛生上の危害の発生を防止するため緊急の必要があると認められるときは、県は、新型インフルエンザ等に感染した遺体に十分な消毒等を行った上で墓地に一時的に埋葬することを考慮するものとする。その際、県知事は、あらかじめ、新型インフルエンザ等に起因して死亡したことを確認の上、遺族の意思を確認するものとする。また、近隣に埋葬可能な墓地がない場合には、転用しても支障がないと認められる公共用地等を臨時の公営墓地とした上で当該墓地への一時的な埋葬を認めるなど、公衆衛生を確保するために必要となる措置について、状況に応じて検討するものとする。

- (ウ) 県は、埋葬又は火葬を迅速に行うため必要があると認めるときは、上記の事務の一部を新型インフルエンザ等緊急事態の区域内の市町に行わせるものとする。

エ 死体の見分について

県警察は、多数の死体の見分に当たり、十分な感染防止策を講じた上、医師及び関係機関等と緊密な連携を図る。

オ 墓地、埋葬等に関する法律の特例

新型インフルエンザ等緊急事態において、埋葬又は火葬を円滑に行うことが困難となった場合において、公衆衛生上の危害の発生を防止するため緊急の必要があるときは、厚生労働大臣が定める地域や期間においてはいずれの市町においても埋火葬の許可を受けられるとともに、公衆衛生上の危害を防止するために特に緊急の必要があると認められるときは埋火葬の許可を要しない等の特例が設けられるので、市町は、当該特例に基づき埋火葬に係る手続を行うものとする。